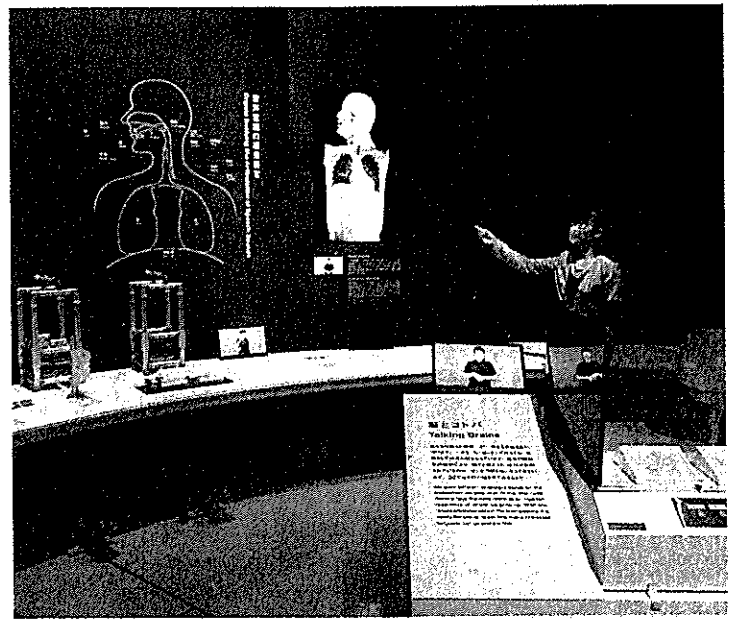


言葉の仕組み 科学的に



MRIの映像や模型を使って言葉を発する仕組みを解説する特別展(吹田市で)

人間が言葉を発する仕組みや言葉を介してコミュニケーションする様子に着目した特別展「しゃべるヒト ことばの不思議を科学する」が、吹田市千里万博公園の国立民族学博物館で開かれている。解説には日本語、英語、手話を採用。全ての展示内容に手話の解説映像を流している。

特別展示館1階では「コ

民博で特別展

トバのしくみ」をテーマに人間の進化と脳の関係をひもとき、言語を発する声帯や口の構造やはたらきを、模型やMRIの映像で解説する。空気を様々な形の吹き出し口に送ると、形に応じて「あ、い、う、え、お」と母音が発せられる模型では、肺や声帯、口の仕組みを体験的に理解できる。

2階は「コトバと多様性」

新型コロナウイルスの影響で、イベントが延期・中止になる場合があります。事前に主催者にご確認ください。会場ではマスク着用やソーシャルディスタンス(社会的距離)の確保など感染予防を徹底しましょう。

がテーマ。病気や障害で言葉が発しにくい人ら様々な立場の20人がどのようにコミュニケーションを可能にしているかを語るインタビュウ動画「私の言語ヒストリー」を展示する。国内外約120人の研究者が協力し、最新の研究成果を紹介している。

11月23日まで。水曜休館(11月23日は開館)。入館料一般880円、大学生450円、高校生以下無料。問い合わせは国立民族学博物館(06・6876・2151)。